

テレビゲームが子どもに及ぼす影響  
—最新研究紹介—

坂元 章

(お茶の水女子大学 文教育学部 教授)

テレビゲームが子どもの発達に悪影響を及ぼすことが心配されています。近年では、子どもによる凶悪犯罪の発生が社会的注目を集めており、犯罪が起こると「テレビゲームの中で人殺しばかりをしているから、そうってしまったのだ」という議論がしばしば見られます。また、引きこもりや不登校なども、テレビゲームのやりすぎが原因だと言われることがあります。

ただし、こうした主張は、必ずしも科学的な研究の結果を踏まえたものであるとは限りません。自分が経験したり、推測したことから導かれているものも多いように思われます。もちろん、このような直観的な見方は決して馬鹿にはできず、鋭いことも少なくないと思います。しかし、そうは言ってもやはり、きちんとした方法に基づいて行われた研究の結果やデータを重視するのが、今日では基本的な考え方と言えるでしょう。

テレビゲームの影響に関する研究は、これまで米国や日本などで行われてきましたが、全般的に研究が少なく、多くのことがわかっていない状況にあります。以下に、現在の研究の状況や研究者の考え方を簡単にまとめてみました。

### 研究の結果はどうなっているか？

テレビゲームについて最も心配されているのは、たぶん暴力に対する影響でしょう。これについては、1990年代半ばまでの研究は、影響はそう心配しなくてよいのではないかという結果を示していたと思います。それが最近では、悪影響を検出した研究がしばしば見られるようになっており、現在では、研究者の考え方は、悪影響をかなり認める方向に動いているように思われます。また、近年では、テレビゲームの技術が高度化しているために、現実さながらの場面で、相手を殺したり、傷つけたりするような体験ができるようになり、これがテレビゲームの影響力を強めているのではないかという考え方も強まっています。

また、テレビゲームに独りで没頭していると、他人とうまく付き合うことができなくなって、引きこもりや不登校を引き起こすことも心配されています。しかし、これまでの研究では、テレビゲームによって、子どもの、他人と付き合う力や意欲などが低下することはほとんど示されていないと思います。むしろ、他人との付き合いが苦手な人が、テレビゲームをするようになるという、逆方向の影響関係が示されています。

テレビゲームが知的能力や学力に及ぼす影響も関心のあるところだと思います。しかし、この問題は意外に研究が少なく、あまり良くわかりません。ただし、1つ比較的はっ

きりしていることとしては、テレビゲームで遊んでいると、図形の形をすばやく把握するなど、物を見る力が向上することです。テレビゲームは、こうしたものの訓練機能があるようです。ものごとを考える力、新しいことを思いつく力、学力などにどのような影響があるかはまだあいまいです。研究が少ないうえに、ゲームソフトの内容によって影響が異なるからではないかと考えられています。最近では、「ゲーム脳」という話題が注目を集めました。テレビゲームをしていると、本当に脳機能が発達しないかどうかはまだわかっていないとは言えません。

テレビゲームで遊んでいると、目が悪くなることもよく言われます。これは以前からテレビゲームだけでなく、コンピューター一般の問題として研究されており、悪影響があるとする見方が強いように思われます。

テレビゲーム遊びで自室にこもっていると、運動ができないために、体力がつかないこともしばしば心配されています。実は、これまで、この問題に関する研究は乏しく、悪影響をはっきり示した研究結果はあまりないと思います。しかし、この影響はそのもっともらしさから、一般だけでなく、研究者の間でも、かなり濃厚であると捉えられているように見えます。

以上のように、テレビゲームの影響に関する研究は、最近、暴力についてなど、かなり増えてきている分野もありますが、全体としては少ない状況です。とくに、知的能力や学力、さらに、体力に関する研究は進んでいません。もっと多くの研究が出されて、いろいろなことが確かになっていくことが必要です。

また、悪影響に対してどのように対処するかを考えたときに、どのようなソフトや使用状況などでは悪影響が強く、一方、どのようなソフトや使用状況などでは弱いのかを調べる研究が重要です。これがわかれば、悪影響が弱くするように、ソフトや使用状況を改善することができます。しかし、テレビゲームの研究は、現在でも、悪影響があるかどうかを検討している段階であり、悪影響を強めたり弱めたりする要因を特定する水準にはありません。

### **ゲームには良い点もあることを忘れずに**

テレビゲームの悪影響について考えるときに重要なのは、テレビゲームには問題点だけでなく、良い点もありうるということです。遊びとして優れているのはもちろんのこと、教育や、福祉・医療などの分野における応用がさまざまに考えられ、実現されているものもあります。よくできた教育的なテレビゲームは、高い学習効果をもたらすようです。今後、このような有効利用が発展していくものと期待されています。テレビゲームに悪影響があるからと言って、単にそれを押さえ込もうとするだけでは、テレビゲームの良い点も損なわれてしまうのです。

テレビゲームには、問題点と良い点の両方があることを理解して、それから単に遠ざかるのではなく、どのような付き合い方が最もよいかを考える必要があると思います。また、

テレビゲームに問題点と良い点があるからこそ、今後、研究を進展させ、テレビゲームのどの部分がどう悪いかについて、細かいところまでを明らかにすることが非常に重要であるのです。細かいところまでがわからなければ、問題点を気にし過ぎてしまって、その分、良い点が損なわれてしまったり、逆に、よい点に配慮するあまり、問題点に十分対応できないことにもなるからです。研究が進展するにつれ、最もバランスがよいのはどこかが徐々に明らかになってくるでしょう。